

令和6年度第2回下野市総合計画審議会 会議録

審議会等名 令和6年度 下野市総合計画審議会

日 時 令和7年2月5日（水） 午前10時00分から11時40分まで

会 場 下野市役所 3階 303・304会議室

出席者 金子康法委員、加藤好雄委員、石川浩委員、佐間田香委員、黒川秀一委員、荒川弘幸委員、中村祐司委員、石嶋信一委員、矢口季男委員、諏訪守委員、加藤主税委員、藤川智子委員、木村千里委員、高山裕介委員、高橋裕美委員、渡辺葉子委員、中島未有希委員
【欠席委員】高田広行委員、横塚麻奈美委員、近藤勘偉委員、加藤主税委員

市側出席者 伊澤総合政策部長、倉井総務部長、直井市民生活部長、荻原健康福祉部長、伊澤産業振興部長、倉持都市建設部長、五月女議会事務局長、濱野会計管理者、高山教育次長（事務局）川俣総合政策課長、早乙女課長補佐、大出主幹、津田副主幹、青柳主査、長谷部主査

公開・非公開の別（ ☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開 ）

傍聴者 なし

報道機関 なし

会議録作成年月日 令和7年3月3日

1 開会

川俣総合政策課長：定刻となりましたので、令和6年度第2回下野市総合計画審議会を開会いたします。本日、高田広行委員、近藤勘偉委員、横塚麻奈美委員、加藤主税委員より欠席の連絡を受けておりますのでご報告いたします。それでは、お手元の次第に基づき、進めてまいります。

2 委員変更に伴う委嘱について

川俣総合政策課長：初めに、委員構成に変更がございましたので、ここでご報告させていただきます。資料の下野市総合計画審議会委員名簿をご覧ください。下野市農業委員会からの委員ご選出におきまして、近藤美好様から変更となり、黒川秀一様が委員となります。ここで、新しく委員になられた黒川様に自己紹介をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

黒川秀一委員：農業委員で会長職務代理の黒川秀一と言います。よろしくお願いいたします。

3 会長あいさつ

川俣総合政策課長：続きまして、中村会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。中村会長よろしくお願いいたします。

中村祐司会長：この審議会は非常に重要な会です。来年の4月以降からいよいよ本格化していくと思いますが、本日も充実したデータを事務局にて用意していただき、皆さんからご意見いただきたいと思います。個人的には、アンケートの自由意見の方を読んでみて、市民の方や中学生、高校生の声になりますが、本当に一人ひとりの意見があり、ご指摘みたいなこともありました。これをまとめるのも非常に大変だ

ったかと思います。本日も、皆さんにぜひご意見をいただいて、進めていけたらと思います。よろしくお願いいたします。

4 議事

川俣総合政策課長：続きまして、議事に移りたいと思います。下野市総合計画審議会条例第6条第1項により、会長が議長を務めることとなっておりますので、これより議事進行は中村会長にお願いいたします。

中村祐司会長：初めに、会議成立、会議録署名人の確認をさせていただきます。本日の出席委員は16名です。委員定数20名のうち、半数以上の委員が出席していますので、審議会条例第6条第2項の規定により、会議は成立します。また、議事に入る前に、会議の公開についてお諮りします。本日、傍聴希望者はありませんが、本会議を公開することによってよろしいでしょうか。

【各委員うなづき】

それでは、異議なしということで、公開することといたします。

続きまして、本日の会議録署名を指名いたします。名簿順で、加藤好雄委員、佐間田香委員にお願いいたしますがよろしいでしょうか。

【加藤委員、佐間田委員うなづき】

署名人の方は、後日、事務局が作成した本日の会議録へ署名していただくことになりますので、よろしくお願いいたします。それでは始めます、まず事務局より資料の確認をお願いします。

【事務局より資料確認】

(1) 第三次下野市総合計画について

中村祐司会長：それでは、議題に入ります。(1)第三次下野市総合計画について、事務局より説明をお願いします。

津田副主幹：【資料1-1～1-4について説明】

中村祐司会長：皆様から意見を伺いたいと思います。

木村千里委員：資料1-3、8ページは一般市民の方々からの下野市の将来像、11ページは中学生からの下野市の将来像かと思います。このグラフで、一般市民、中学生それぞれ「交通事故・犯罪・公害・災害のない安全・安心なまち」に関心を持っていることがわかります。また「高齢者や障がいを持つ人も安心して暮らせる福祉のまち」については、一般市民の方々の意見が上から4番目、中学生ではかなり下の方になっています。中学生たちには、こちらにも関心を持っていただきたいなと思い、どのように情報発信をしていけばいいのかを考えたときに、障がい者とか高齢者の方たちに対して目を向ける、そういう機会、あるいはそういう考え方を持つ教育が必要になってくるのではないかと思います。

中村祐司会長：複数回答で、パーセンテージ自体は多いのですが、もちろん両方がそれぞれ思いやりを持って、うまくバランスが良いというのが理想なのでしょう。世代ごとに関心が違ってくるということが少し心配だという意見で、自由意見の中でも、なんでもかんでもやるのは無理だ、ある程度絞ってやること

も必要じゃないかというのは、説得力ある事実だと思います。その辺のバランスをとって、どのように反映させていけばいいのかということかだと思います。事務局いかがでしょうか。

荻原健康福祉部長：貴重なご意見を賜りましてありがとうございます。現在、核家族化も進んでいる中で、高齢者の方と触れ合う機会が減っているのではないかと推測されますので、現在やっていないわけではないのですが、教育委員会と連携しながら、次期計画の中で書き込めていければと考えております。

石川浩委員：資料3の1ページですが、年代別回答の割合は前回の回答率と同じような傾向だったのでしょうか。

津田副主幹：後日回答させていただきます。

石川浩委員：回答数的なバランスを取る必要があるのであれば、次の都市計画や総合計画の際には、若い人はあんまり回答しないから、配布数を増やそうかという対応が必要かなと思ったところです。

中村祐司会長：次の計画策定時には、無作為っていうよりは、世代の割合について少し大目に調整するといったご意見でした。他にいかがでしょうか。

佐間田香委員：健康福祉の健康教育でお世話になっているものですから、その立場から申し上げたいと思います。健康福祉と学校教育で課が分かれているので、どっちが主になるとか、なかなか難しいだろうなと思いつつも、とても重要なことだと思うので、ぜひ次の計画に生かしていただけたらと思いました。2点目として、アンケートに関するのですが、まず中学生アンケートの8ページ、「地域に活気やにぎわいがある」かどうかということで、学校別や地域別の結果になるのかなと思いますが、普段も私たちも感じているところですが、石橋地区は若い人たちが参加する行事があり、公民館も新しくなって活気が出てきたなと思います。中学生たちもいろんなイベントに参加していることで、賑わいがあると思ったのかなと思いました。その状況を踏まえて、25ページの「あなたは将来下野市に住みたいと思いますか」という問いになります。「できれば住みたい」が一番多いのですが、「住みたい」と「できれば住みたい」を足した場合、石橋地区は86.7%のお子さんが住みたい、できれば住みたいと回答していて、南河内小中学校63.9%、南河内第二中学校74.1%、国分寺中学校70.0%と、かなり乖離があるなと思いました。子どもたち自身の意見が反映されている、自分たちが支えていける・参加していける市であることがすごく重要なのかなと思いました。ぜひ、今回の計画に中学生の意見やワークショップの結果を反映していただき、今後も住み続けてくれて、将来的に子どもが増えたら嬉しいなと思いました。併せて、職業割合が、医療従事者・福祉関係者が全体の4分の1という資料をみて、一般的な働き方ですと、土日休みで、平日朝から夕方まで働くというのがスタンダードな考え方なのかなと思いますが、市民の4分の1はそうじゃない暮らし方をしているかもしれない、夜勤をしているかもしれない、土日働いているかもしれない、そういった医療従事者が多いという地域の特色を踏まえて、計画を策定していただけたらと思います。

金子康法委員：資料1－4の1ページ一番下のほうに、高齢者ほど幸福感や住みやすさへの評価が下がる

傾向にあるとありますが、高齢者はこれからどんどん増えていくため、今後も幸福感は下がると想定されることから、このアンケート結果から何を読み取って、どうしていかなきゃいけないのか、その辺はいかがでしょうか。

津田副主幹：市民対象調査アンケートの 44 ページをご覧ください。ここで、「あなたが「幸せ」であるために重要だと思うことは何ですか」という質問をしており、その下にクロス集計表で、50 代から 80 代の方は「健康状況」という回答の割合が 7 割から 8 割、40 代までだと「家計の状況」が一番高いといった結果でした。そのため健康状態の維持が幸福感を高めるためには大事なのかなと思いました。また 12 ページ、13 ページに住みやすさについての設問があり、自由回答にはなりますが、高齢者にとっては買い物がしにくい、移動が不便、車がないと生活しにくいというようなことがご意見としていただいているところ です。

中村祐司会長：ありがとうございました。次の議題に移ります。

（２）第三期下野市デジタル田園都市国家構想総合戦略について

中村祐司会長：続きまして、（２）第三期下野市デジタル田園都市国家構想総合戦略について、事務局より説明をお願いします。

大出主幹：【資料 2－1、2－2 について説明】

中村祐司会長：こちらについて、皆様からご意見をいただきます。

石川浩委員：3 ページ、グラフの中に、旧南河内町、旧石橋町、旧国分寺町との表現があります。一方、上の方には石橋地区（旧石橋町）などとなっておりますが、旧〇〇〇町という表現は、私はいらないと思います。また、あの文章の中の（旧石橋町）などもいらないのではないかと思います。来年、下野市は市政施行 20 周年を迎えます。この旧町の表現はどこかで消さないと、何年経ってもなくならないため、ご検討をお願いします。また人口ビジョンの、13 ページと 15 ページの転入者数、転出者数のグラフですが、ターゲットは県内、県外と異なりますが、なぜグラフの作り方が違うのかなと疑問に思っております。個人的には 15 ページの方が見やすいと思います。ご検討をお願いします。

大出主幹：3 ページの旧〇〇〇町という表記について、出展が国勢調査の結果であり、そのデータが旧〇〇〇町としていることから、このような表記としましたが、人口ビジョンの表記方法については、今後工夫させていただければと思います。

藤川智子委員：助産師の藤川と申します。合計特殊出生率の増加ということで、なかなか難しいのかなと感じておりますが、他県だと産む場所が無いのですが、栃木県はすごく恵まれていて、産みたい病院がすぐ見つかるような状況なのですが、それでもやっぱり少なくなっているという状況なので、都内とは異なる事情があるのかなと思います。それから、ここ 5、6 年の第 1 子を産む女性の年齢を見ると、だいたい 30.1 歳とかで定位しています。やはりもっと若い年齢で結婚できて、子どもが出産できるような、そうい

う環境をつくっていくことが下野市には必要なのかなと思います。また、こんにちは赤ちゃん訪問で実際に家庭訪問してみると、新興住宅地に訪問する回数が多いのかなと思います。訪問にて、都内に勤務されている家庭に話を聞くと、年内には小山市の方に転出しますという方もいて、やはり都内への勤務の利便性を考えると異動してしまうのかなと思います。出産関係の環境を見ると、栃木県は周産期にかけて保険適用分の医療費が助成されます。これは全国でも 5 県ぐらいしか行っていない制度です。さらに下野市は産後ケア事業も充実しています。もっともっと、出産前の方達に情報提供していったほしいと思います。

中村祐司会長：ありがとうございます。他にいらっしゃいますか。

佐間田香委員：3 点ほどあります。1 つ目は 37 ページ、人口の将来展望ということで、合計特殊出生率が最終的には 2.07 とありますが、達成はかなり難しいのではないかなと思っています。2025 年の目標は 1.50 で、2020 年の実態は 1.34 とのこと、新型コロナウイルスの感染拡大があったので仕方がないのかなと思いますが、厳しいのかなと思います。2 つ目は考え方なのですが、子育てしやすい環境や結婚しやすい環境を整えることはもちろんそうなのですが、そもそも若い人たちが結婚したいと思っているのかなと考えてしまいます。3 つ目は、若い人たちをターゲットにするのであれば、例えば SNS の発信方法であるとか、もっと若い人向けに、かっこよく発信してはいかがでしょうか。プロの人に頼むとお金がかかるかもしれないのですが、若い職員さんに作っていただいて、かっこいい SNS が発信できたら嬉しいなあと思いました。

中村祐司会長：ありがとうございます。

矢口季男委員：2 ページ、3 ページを見ていただくとわかるのですが、1990 年に旧南河内町の人口が急増したことについて、コメントしておくべきではないかなと思います。最近の方たちはその理由がわからないのではないかなと思うので、具体的にこういう理由でこうなったということを入れておくべきかなと思います。

大出主幹：表記方法については工夫したいと思います。

中村祐司会長：ありがとうございます。私からもひとことありまして、栃木県の発表で、今から 35 年後の 2060 年の栃木県人口について、これまでは 150 万人を目標にしていたものを 140 万人に下方修正しました。これはけっこう驚きの数字で、やっぱり栃木県と言ったら 200 万人っていうのがずっとあったので、それが 35 年後には 140 万人になるというのが素朴な驚きでした。だからこそ下野市はすごいと思っておりまして、2060 年で 52,035 人を目標にしよう、なんとかここで抑えようっていうことは、今後の人口対策モデルにもなるような都市だと思います。

(3) その他

中村祐司会長：その他に移りますが、事務局から何かございますか。

早乙女課長補佐：本年度の審議会は本日が最後となっており、委員の任期は 3 月末をもって満了となりま

す。次年度は、また新たな審議会委員により検討を進めさせていただきますので、よろしくお願いします。
第1回会議につきましては4月を予定しています。

津田副主幹：すみません、ちょっと戻るのですが、資料1－4の3ページ、基本施策1－5誰もが安心して暮らせるまちづくりの健康診査受診率の令和6年結果の欄が未確定となっているところについて、令和6年12月末現在で29.3%になります。

中村祐司会長：ありがとうございます。委員の皆様はどうでしょうか。

藤川智子委員：若者の出生率を増やすということについて、若者の出会いの場がもっと増えれば違うのかなと思っています。私自身は、仙台の大学で勉強したのですが、5月の連休に仙台市内のすべての大学でくじ引きを引いてグループ分けをするような、合コンイベントがありました。下野市でも、新しく就職した人たちとか、就職1年生などを対象に、もうちょっと大々的に開催してみてもどうかと思いました。出会いの場がなかなか知れ渡っていないのかなと思いました。

中村祐司会長：ありがとうございます。それでは議事は全て終了いたしました。進行を事務局にお返しいたします。

川俣総合政策課長：委員の皆様の任期につきましては、先ほどご説明させていただきましたとおり、この3月でございます。任期満了にあたり、市を代表しまして、総合政策部長の伊澤より、皆様に御礼のご挨拶を申し上げます。

伊澤総合政策部長：本日は、たくさんのご意見等を頂戴いたしまして、大変ありがとうございました。委員の皆様には2年間、貴重な時間をいただき、議論をしていただきましたこと、市を代表して御礼申し上げます。来年度は、ご案内のとおり次期総合計画の策定となります。これまでの議論・意見を踏まえまして、皆様の貴重なご意見をしっかりと受け止めて、策定を進めていきたいと考えております。また、来年1月10日に市制施行20周年を迎えます。今後も、市民の皆様に住んで良かった、中学生・高校生に引き続き住みたいと思ってもらえるまちを目指すとともに、大学進学した後も戻ってきてもらえるような雇用の場も非常に重要になってくるかと思います。現在スマートインターチェンジの開通に向けて、整備を進めており、新たな産業団地の整備も行っております。また、昨年6月6日に自治医科大学と包括連携協定を結び、働く場所としての医療機関についても、自治医科大学と連携を深めながら増やしていければと考えているところです。引き続き、人や企業に選ばれる自治体を目指して、魅力あるまちづくりを進めて行きたいと考えております。委員の皆様におかれましても、これからもどうぞご支援のほう賜りますよう、よろしくお願いいたします。

川俣総合政策課長：以上を持ちまして、本日の会議はこれで終了となります。

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員